

# 水素ステーション整備方針～水素社会の実現を目指して～（概要）

ふじのくにFCV普及促進協議会

## ○背景

- ・エネルギー使用における化石燃料への依存度の高さや地球温暖化等が大きな課題であり、将来的なエネルギーとして水素の利活用が注目される中、燃料電池自動車（FCV）の販売が開始され、その活用を広げていくことが期待される。
- ・FCVの普及のためには、燃料充填施設である水素ステーションの整備が不可欠であり、整備に係る様々な課題を乗り越え、効果的に進められるよう、県の「エネルギー総合戦略」の施策方針と整合を図りながら、水素ステーションの整備に向けた状況や考え方を官民で共有し、連携した取組を加速させていくことで、水素社会の実現を目指す。

## ○国内におけるFCV、水素ステーションの動向

- ・エネルギー基本計画を受け、平成26年6月、「水素・燃料電池戦略ロードマップ」が取りまとめられ、平成28年3月の改訂において、FCV普及に向けた目標が掲げられた。

- ①燃料電池自動車（ストックベース）について、2020年までに4万台程度、2025年までに20万台程度、2030年までに80万台程度の普及を目指す。
- ②2025年頃にボリュームゾーン向けの燃料電池車の投入、及び同車格のハイブリッド車同等の価格競争力を有する車両価格の実現を目指す。
- ③水素ステーション個所数を2020年度までに160箇所程度、2025年度まで320箇所程度とする。

- ・水素ステーションの整備費用を低減すべく、整備費用に対する補助、規制見直しや低コスト化のための技術開発が進められている（目標：2020年代後半までに水素ステーションの自立化）
- ・国からの補助を受け、平成28年度末までに全国92箇所で商用水素ステーションが整備。

## ○静岡県内のFCV普及のポテンシャル

- ・人口・経済の規模などから、本県はFCVの普及が進む可能性を備えた地域である。
- ・また、先行普及している首都圏と中京圏の間に本県は位置し、高規格幹線道路の整備や経済活動、観光交流が進む状況などから、FCVの市場投入に伴い、燃料充填場所が必要となることを見込まれ、自然環境の保全や産業振興、さらには災害時への対応の観点からも水素ステーションの整備が求められる。

## ○水素ステーションの整備に向けて

- ・FCVの普及を着実に進めていくため、FCVの普及台数及び水素ステーションの設置数の目標を設定し、官民で連携し取り組んでいく。また2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックに向けて、燃料電池バス（FCバス）の導入についても目標を設定し、検討していく。

### （FCV普及目標）

項目	平成32（2020）年	平成37（2025）年	平成42（2030）年
県内のFCV普及台数（FCバス）	1,500台（1台）	7,500台（5台）	30,000台（20台）

### （水素ステーション整備目標）

項目	平成32年度（2020年度）	平成37年度（2025年度）
県内の水素ステーション設置数	6箇所	12箇所

- ・公用車や社用車、バスやタクシーなどの営業車両において、FCVやFCバスを積極的に導入し、また水素ステーションの整備促進、効率的な運用を図るため、コスト低減につながる支援や技術開発等を行っていく。
- ・水素における社会受容性の向上のため、FCVの展示会・試乗会や水素ステーションを活用した水素エネルギーセミナーの開催等により、県民の水素に対する理解促進を図る。